

平成 2 1 年度 事業計画書

自 平成 2 1 年 4 月 1 日

至 平成 2 2 年 3 月 3 1 日

I. 助成部（一般会計）に関する事項

1. 収入について

基本財産運用収入 1,322 千円、賛助会会費収入 4,400 千円、寄付金収入 7,100 千円、運用財産運用による利息等収入 2,460 千円が助成部の収入として見込まれます。

2. 事業計画について

- | | |
|---|----------|
| (1) 図書印刷費 | 600 千円 |
| 大阪大学蛋白質研究所紀要出版費として計上しました。 | |
| (2) 大阪大学蛋白質研究所における講演会及び討論会の助成 | 600 千円 |
| 上記の助成のため交際費 300 千円、会議費 300 千円を計上しました。 | |
| (3) 蛋白質に関する研究の助成 | 3,000 千円 |
| 大阪大学蛋白質研究所における一般研究助成費として 3,000 千円を計上しました。 | |
| (4) 学会等開催に対する助成 | 500 千円 |
| ペプチド関連学会等に対する助成費として計上しました。 | |
| (5) 赤堀・鈴木奨学金の支給 | 1,920 千円 |
| 蛋白質に関する研究者養成のために大阪大学蛋白質研究所所属の研究生及び大学院後期課程修了程度以上の研究者に対し、1 人月額 80 千円、年額 960 千円、2 名分を計上しました。 | |

(6) 金子・成田研究奨励金の交付 3,000 千円
アミノ酸、ペプチド、蛋白質に関する優れた研究に対し、1件当り 600 千円、5件分の研究奨励金を計上しました。

(7) 海外研究者招聘費 500 千円
海外よりの研究者1名の旅費、滞在費及び諸雑費を計上しました。

(8) 分子生物学研究の助成 3,000 千円
A-IMBN・AMB O分子生物学研修会経費を計上しました。

第32回 A-IMBN・AMB O分子生物学研修会

課 題： 未定

主宰者： 未定

場 所： 台湾

日 時： 未定

(9) 大阪大学蛋白質研究所創設50周年記念事業費 3,000 千円
創設50周年を記念して講演会、シンポジウム開催等記念事業に要する経費として計上しました。

3. 環境整備費 500 千円
建物周辺の害虫除草対策及び建物内の住環境整備費として計上しました。

II. 事業部（情報）（収益事業会計）に関する事項

1. 収入について

受託研究収入 22,714 千円、図書印刷物売上収入 3,000 千円、雑収入 11,386 千円、助成部より振替 16,000 千円、総額 53,100 千円が事業部の収入として見込まれます。

2. 事業計画について

“Peptide Information” に関しては、データのより高度な利用を目指して PDF 形式で作成し、CD-ROM に格納して配布しています。この改善により PubMed や DDBJ などの他の有用なデータベースへのリンク情報が直接利用できるようになり、より一層充実した情報提供を行うことができるものと考えています。また、PDF 以外にも、ウィンドウズやマッキントッシュの主要な文献データベースソフトで Peptide Information を利用できるように、文献データファイルを以下のソフトウェアに対応するフォーマットで作成して CD-ROM に格納していきます。ウィンドウズ用としては GetARef 版、マッキントッシュ用としては EndNote 版、MS-DOS 用としては当財団で開発した PI-Retriever 版を準備しております。さらに、索引号を作成する際には、その年の“Peptide Information”のバックナンバーの PDF ファイルをあわせて格納しますので、さらに、高度な利用が可能となります。

タンパク質・ペプチドに関するデータベース、PRF/LITDB（文献データベース）および PRF/SEQDB（アミノ酸配列データベース）に関しては、インターネット上で利用できるように World Wide Web サーバーの機能を拡充すると共に、各種検索サービスのより一層の充実をめざします。インターネット上でのデータベースの検索システムの改良もひきつづき行います。特に、検索結果がよりわかりやすくなるような改善を目的としてユーザーインターフェースの改良をおこないます。また、検索結果を印刷するシステムの開発も行います。

一方、合成ペプチドおよびその関連化合物データベース（PRF/SYNDB）については、画像情報として格納してある構造情報をインターネット上で公開するために、システムの増強を引き続き行うとともに、検索および表示システムの改良を続けます。

前年に引き続き、データベース構築および公開のためのインフラストラクチャーを全面的に見直していきます。ハードウェアとして PC サーバーを採用していく事で、より高いコストパフォーマンスの実現をめざします。サーバー OS として、現在採用している Solaris および Windows を Linux (CentOS) に変更することで、更に安定的なサービスの提供を行うことができます。サーバー OS の変更にとまなうシステムプログラムの作成および改変も行います。

国際協力の立場からは、各国の研究機関によるインターネットを利用した当財団のデータベース利用環境の整備を進め、研究者がより一層利用しやすいデータの提供方法も検討していきます。

平成 15 年度をもって終了しました文部科学省知的基盤研究「生体内ペプチドのデータベース作成の研究」については、その成果であるペプチドームデータ

ベースの維持ならびに公開に引き続き協力していきます。また、インターネットを利用した本データベースの構築方法についての研究、及び公開方法ならびにネットワーク機構の研究も続行します。

平成18年度に、大阪大学生物工学国際交流センターとの共同研究として「酵母分類データベース」の構築を開始しました。本データベースは平成20年度より(独)製品評価技術基盤機構、バイオテクノロジー本部、生物遺伝資源部門(NBRC)に移管されましたが、データベース開発およびデータ導入に関する共同研究は引き続き行います。